

「令和五年の年度初めを迎えて」

四月は入社式や入学式、新学年という、心新たにする良い機会です。

私自身、会計人という業界に入り早や四十五年。全くの徒手空拳で走り出しました。中小企業の社長に会い、「何か、会計人として役に立つことはないか」「どうすれば、喜んで下さるか」を検討し、実行し、改善する日々でした。

当初は、中小企業ゆえ、人の採用が難しい、人が定着してくれない等々「**人の問題**」があること。中小企業ゆえ、金融機関からの融資を受けるのも難しく「**資金の問題**」があること。これは、**中小企業に共通する最大の問題でした。**

「よし、会計人として、せめてこの二点の問題だけは解決する、お手伝いをしよう」と決意しました。そのための方法は何か、道具やノウハウは有るのか、先輩はどう対処して来たのか考え、とりあえず本を参考にすることにしました。

伊藤肇の「現代の帝王学」や、田辺昇一の「伸びる会社の創り方」、一倉定の「社長学シリーズ」とりわけ安岡正篤の「人間学・人物学」古典・名著を貪るように、何度も何度も読みました。

一、万巻の書を読むこと。一、師友を求めること。一、名山大川に遊ぶこと。と

安岡正篤師は、平易な、しかし深い教えを示してくれています。

「**人の教育、社員教育が大切だと思いましたが、古典を読み込むほどに、「社長その人が学ぶこと」こそ、中小企業を発展成長させることになる**と気付きました。

読書は、読者が意識するか否かに拘わらず、謙虚さを、素直さを、反省を、あるいは勇気を、矜持を持つことを教えてくれます。

師を求めて、出て行くと確かに出逢うものです。越智直正社長にご縁をいただき、生涯の師と慕い、夏原平和社長にご縁をいただき、見る世界、感じるレベルが格段に広がりました。

十年悶々としていた疑問をぶつければ、間髪を入れず応えてくれます。又、愚問には「そんなことは自分で答えを見つけれ」「人生の悩みの大半は、もう答えが出ている」等々、師匠は、私より遙か以前に経験し解決して来ているのです。

名山大川に遊ぶとは、日常を離れ、日本の文化・伝統・歴史・風土・自然に触れ、ゆったりと温泉に浸かり、友と酒を酌み交わしながら人生を語ることで、日頃見失いがちな小さな事に、改めて感謝の念を深くします。越し方を振り返り、行く末を考えます。人生の一回性に思いを致すことができます。経営とは、仕事とは、人生とはと深く考えることで、自然と素晴らしい社長になって行かれる方を沢山拝見してきました。

四月です、年度初めです。さあ、社長、共に良い会社を創って参りましょう。

今月のポイント

澆刺とスタート

しましろう

